

第六期長期計画・調整計画市民会議（第3回）会議録

グループ討議：平和・文化・市民生活分野

■日時 令和4年7月3日（日）午後1時から5時

■場所 武蔵野市役所 812 会議室

1 開会、事務連絡

事務局より本日の会議の進め方等について説明した。

2 グループ討議

「平和・文化・市民生活、緑・環境、都市基盤」の3分野について、グループに分かれ議論を行った。各分野の議論を始める前に、事務局よりその分野の現状の課題やこれまでの取組みについて説明をおこなった。

●平和・文化・市民生活分野

【Aグループ】

○A委員

では、私がまとめ役になります。

平和・文化・市民生活、多岐にわたるんですけども、これに沿っていくと、昔、中島飛行機の武蔵製作所がここにあって、爆撃対象になったということで、平和を維持していこうじゃないかということになっているんですけども、B委員が書いていただいたやつにも書いてあるんですけども、戦争の悲惨さを訴えるということで、武蔵野市では中島飛行機のところに対する爆撃があったということで、平和を強く推進していこうというんですけども、今は中島飛行機はなくなって、軍事目標になるようなところはなくなっているんですけども、だから、平和を唱えるということに関して、漠然としていて、私自身、何が武蔵野市としての平和の取組みかということ考えたんですけども、そういうことを考えた場合に、市民ごとのつながり、外国人が生活している中で外国人を含めたコミュニケーションをとっていく。そんなことが広くは平和につながっていくことなのかなと思っているんです。大体、私、平和ということで考えるとそんなところなんですけれども。

○B委員

たまたま第二次大戦の強制疎開によって資産も全部没収されて犠牲になったものだから、今もロシアのウクライナ攻撃によって、相当の空爆で木っ端みじんみたいな状態になっている。そういったものを誰が補償するか。ウクライナが補償するんですか。ロシアが補償するんですか。市民はたまったものじゃない。そういった意味合いでは、うちが第二次大戦のときに吉祥寺の駅前に90坪の借地があったんですけれども、立ち退きをくらって、1週間でどかさされている。行く先もなく、とにかくどきなさいという話で、たまたまうちのお店の母屋が大黒柱だったものだから、周りの家は、当時はロープを直すと倒れてしまう。うちの建物ごと倒れてしまう。だけど、母屋だけは倒れないから、戦車がきて倒されてしまった。そういう状況で全部すっからかんになってしまって、なおかつ、拘束性定期預金という三菱銀行の通帳でしたけれども、そちらの通帳にお金を定期預金として、ちゃんと拘束性だから、ちゃんと満期日が入っているんです。ところが、強制疎開でどかさされているから、途中でお金の封鎖が解除されて、何も入ってこない。新聞の片隅の広告欄に書きました。どういう言い訳をするか。新聞なんかとっている余裕がない。空っぽになってしまった。そういう中において、満期日におふくろが1歳の一番上の姉さんをおんぶして、銀行へ取りに行ったら、門前払い。うちではない。日銀に行ってくださいという話になって、日銀まで行って、日銀でお話しした結果、税金になりましたと。あきらめてくださいと言うんですね。早い話が。そういうふうにして資産を没収したものを無責任にも、そういう補償があるのか。約束していながらもなくなってしまう。こういったことが今後、今、ヨーロッパでも起こってくると、とにかく戦争してはいけないけれども、犠牲になったら補償してくれないとな。という気持ちはありますね。

○A委員

拘束性定期預金というのはどういう性格なんですか。

○B委員

途中でお金を下ろすことはできませんよということ。

○C委員

満期日を満を持して待っていったのに。

○B委員

にもかかわらず、お金が途中で封鎖が解除になったから。

○A委員

これは、もともと定期預金に入れるときにそういう条件は全く明示されていないで、突然、条件が出されてきて、それで没収と。

○B委員

没収は言い訳だろうけれども、結局そういうことなんです。

○A委員

戦争というのは、混沌とした中で何でも起こるから、二度と戦争を起こしてはいけな
よということ。

○B委員

結局、資金的にも家の中が大変になってしまうと、子どもたちの教育も費用がなくなっ
てしまうし。

○D委員

調整計画に、今のご経験の教訓を生かすとすると、今、ここの前文を見ていたんですけ
れども、「一人ひとりの命と人権が守られる真に平和な状態を保ち」とあるんですよ。

「真に平和な状態を保つ」ときの前段が、命と人権だけではなくて、その人の持っている
そこでの歴史だとか、その人たちの一家が築いてきた歴史と資産も守られなければいけな
いということですよ。

○C委員

資産を守るというところは難しいけど、抜け落ちているんじゃないですか。考え方のと
ころで。

○B委員

武蔵野市が平和の日を制定してやっているじゃないですか。非常にいいことなんだけれ
ども、基本的には中島飛行機に空爆のあった話ばかりなんですよ。我々みたいに、空爆は
免れたけれども、たまたまうちの周りは落ちなかったからあれだけれども、空爆以外のこ
とでも犠牲になっているものが全然取り上げられない。かつこよく語っているけれども、
いいかげんにしてほしいという話。

○C委員

かつこよく語られていると映るんですよ。当事者の方たちにしてみたら。

○B委員

空爆で直接攻撃があった話ばかり取り上げていると、それ以外のはちゃんと調べている
んですか。もっと金銭的に犠牲になっている人がいるんだよと言いたい。

○A委員

市民の声として。ただ、市でどうこうという話ではないような気がする。

○B委員

市でどうこうする話ではないけれども、市民としてそういった、平和の日のイベントをやっているわけだから、そういうところの話の中に、こういう犠牲もあるんだというのを持ってくるとか。

○C委員

それはだんだん語れる人がいなくなってくるじゃないですか。私も今初めてそんなことがあったんだと知りましてけれども、そういう機会がないと知り得ない情報ですよ。

○A委員

武蔵野ふるさと歴史館にこんなまとまった話があるんですかね。武蔵野ふるさと歴史館はどこにありますか。

○B委員

境の一番西の小金井寄りのところ。

○E委員

昔は図書館だったところですね。

○C委員

西部図書館か何かがあったと言っていましたよね。

○B委員

そこには戦争の中島飛行機の空爆に対する、あのときには確かに爆撃を落とされているんです。そういった資料は残っている。吉祥寺の駅前がどかされてしまったという話も、何かの一文には載っていました。だけど、みんな取り壊してしまっって三菱銀行だけが残ったと。

○D委員

もっと多くの人々の伝承記録を集めないと、全貌がまだまだ見えてきていないということですかね。

○A委員

F委員、何かどうですか。平和・文化・市民生活、今、平和のことで。

○F委員

平和について話したほうがいいですかね。

○A委員

次にいってもいいですよ。LGBTだとか、その辺の話に移ってもいいです。外国籍市民の支援とか。

○F委員

今までのお話が重過ぎて、平和について、なかなか言えないんですけど。性自認とか、LGBTとか、そういった方向性にどう向き合っているのかという市の姿勢があまり見えないですね。どういうふうな教育がなされている。例えば、公立学校でどういう教育がなされているとか、そもそもしているのかとか。職員の採用においては性別の欄をなくしていますとか、そういうような取組みというのがなかなか見えてこない。

この間も自転車駐輪場の定期申し込みに申し込んだんですけども、男性か女性かしか欄がないですよ。その他がないです。今、アンケートをとるときには、必ずその他とか、どちらでもないというのがあるんですね。そこで戸籍上の男性、女性を入れざるを得ないという状況があるわけです。そういったところで個性と能力を生かせる環境をつくるのが果たしてできるのかどうか。ベースのところ。というのはちょっと問題なのかなとは感じております。

平和な社会の構築に関してはそんなところです。

○C委員

書式の改正。細かいことかもしれないですけども、そういうところに対しての市の対応はあまり早くないですよ。一番後送りにされるみたいな。

○A委員

何に対して。

○C委員

書式の変更みたいなところは、いつも後送りみたいな。この辺で理想論みたいなものをすごい語っているわりには、実務のラインまで落ちてきていないでしょうという話。理想のところそういう多様性を認めて、性別は関係なくしましょうよと言っているのだとしたら、即実務ラインのところにもそれが反映してくるようなスピード感を持ってほしいなど。多分、この理想が忘れられたところに実務様式が変わって行って、あれ、これなんだっけ？みたいになっていったら、話もつたない感じがするんですよ。実務の現場にいるのが市民だから、その現場で見える書類がこうやって変わってきているかといえば、市、頑張ってるじゃん、みたいなことが市民に伝わりやすいと思うんですけど、

そのスピード感がかけ離れていて。

○A委員

主役は市民で、そこが具体案を出さないと何も始まらない。

○C委員

そうそう。ちょっとそこが残念ですよ。

○B委員

今、LGBTが出たので、ちょっと思っているのは、多文化共生社会を理解し、尊重しなければいけないという話なんだけれども、外国籍市民のサポートは絶対必要だと思うんだよね。だけど、そこら辺となると、今の行政は、もう1回また議会上程しようとしているのか何かわからないけれども、住民投票。サポートと住民投票問題を絡めて制度を条例化しようとしているような気がしてしょうがない。そこら辺が本末転倒的なものじゃないかなと。3カ月の住民だったら、住民投票の権利があるんですよ、みたいな住民投票条例。それだと、3カ月、わずか2カ月、1カ月の状態ですけれども、外国人に対する市の制度のサポートがあれば、何の問題もないはずなのに、何か少し違う方向。考え方がおかしいんじゃないかという。

○A委員

私も、外国人の意見を反映させるという面では、賛成は賛成なんですけれども、何でそこに住民投票権まで出てくるのか、その因果関係はわからないんですけども、3カ月というのもあまりにも短いと思うんです。短期的にいるだけの人かもしれないし、あるいは、3年、5年という人なのかもしれないし、せめて1年ぐらいは必要なのではないかと思います。

○C委員

武蔵野市のことを本当にわかってきている。住んでいる期間の長さで理解力を測れるのかどうかもわからないですけども、きのう来たばかりの外国人だって、武蔵野市のことを前もって勉強されているとか、本当にここに来たくて来たという方だったら、私なんかよりもよほど武蔵野市のことを大好きで、武蔵野市のことを勉強してきていて、そういうご意見もいっぱい持っていらっしゃるという人もいるかもしれない。長さで測るとするのは、1つの目安になるのかもしれないですけども、果たしてそれがいい悪いの判断になるのかというと、ちょっと疑問かなと。

○A委員

どれだけ考えているか、しているかということですね。

○C委員

その方の気持ちというか、意思が大事かな。そこを測れるようなものを市の頭のいい人たちが考えていただいて、何かできるといいかなと思うんですけどね。日本国籍の市民であっても、幾ら長く住んでいても、市報も見たこともないとか、市役所がどこにあるの？という方だっているかもしれないですよ。そんな方に、そんな方と言ったら怒られてしまうけれども、自分も含めてです。自分も含めて、市政に無関心過ぎる市民よりも、本当に自分が住みたいまちにやってきたんだよという方のほうが意識的には高いと思うので、そこが上手に取り込めていけるといいのかなと思う案件でした。住民投票条例の外国人の方がどうだこうだいうところは。実際に私たち市民のほうが無関心だったでしょうって思ってしまうんですよ。

○A委員

普段から、ここに居住している外国人と接触の機会が全くないのに、突然そういう感じになると、よくわからないですよ。私も海外に10年以上住んでいたんで、自分が外国人だったのでわかるんですけども、コミュニケーションを地元の人と取り合える機会がないと、何とも言いようがないですね。

○B委員

先ほどのF委員の話に戻っていいですか。先ほど、基準が男性か女性かという判断。それ以外があってもいいのではないかという話になったんだけど、実を言うと、私は、恥ずかしい話なんだけど、婦人科の検診を受けています。なぜかという、おっぱいが左のほうが少し大きくなってきて、痛みを感じるし、触るとコリコリしている。おかしいぞ、これはと思っていた。日赤へ行ったら、真性女性化乳房。おっぱいが女性化している。反対に、ニセ女性化というのは、お相撲さんとか、ああいうタイプの人のおっぱいを言うんだって。マンモグラフィで、幾らも出っ張っていないのに挟まれて、そうしたら乳腺炎なんです。こっち側も、こっち側は痛くないのに、両方やらなければという話で、どっちも強引にやられて、両方とも乳腺炎だったんです。薬で治すんですか。煙草と酒をやめれば治るなんてばかなことを言って。薬は何も出なかったけど、実際に気にしていながらあれしていたけれども、ただ、婦人科へ行って、名前を呼ばれるまで座っていられるわけがないじゃないですか。

○C委員

ほかの女性たちも多分、何で男の人がいるの？って思いますよね。

○B委員

変な目で見られてしまう。だから、廊下ですっと様子を見ていながら、本当に間際になって入っていくんです。事前に違う入り口があってもいいのかなと思うんです。ネットで見ましたよ。ちゃんと真性女性化乳房ってあるんだ。まれに出るんだって。

○C委員

言われているわりには、社会の仕組みの構造がそこにまだ合っていないからそういう目に遭ってしまうわけですよね。どなたでもが平等にそういう機会を受けられるようにと言うのであれば、そういう施設とか受付の窓口の配慮も。

○F委員

市民の意識改革も必要でしょうね。要は、行ってみつともない思いをしなければいいですね。みんなが、ああ、こういう人もいるんだな、みたいな感じで了解してもらえれば、別にいたって問題ない。

○D委員

それを市民の人たちが意識しない、さりげなくというところになるためには、引き続きずっとそういうことを言い続けたいいけないですね。

○B委員

お医者さんも、婦人科の壁でもボードでも何でもいいんだけど、ああいうところに男性でも乳腺炎になる方もいるんですよと張ってあれば、ああ、あの人はひよつとしたらと。

○C委員

情報の周知の仕方が難しい。

当事者の方から聞くと、初めて知ることはいっぱいあるので、今、つくづく思いましたけれども、それが広く人に知れ渡る、意識してもらえるというか、認識してもらえるような広報手段というか。そういうのが施策に入ってきてもいいのかな。

多分、六長のやつだって、こんな立派なものができるなんて、どれだけの人が知っているの、みたいな。

○A委員

それにしても具体的に、パートナーシップ制度がうんたらかんたらと、役所に市民課の窓口へ行ったら登録できるのか、あるいは、夫婦別姓とやった場合に登録されるのか、受

け付けてもらえるのか、そこが全然わからないですね。

パートナーシップ制度は、ゾーニングを含めて、望ましい支援を検討するになっていて。

○事務局

パートナーシップ制度は、条例改正して、この4月から始まっています。

○C委員

そんなことさえも知らない。

○E委員

市民に対する知らせ方もいろいろ考えていけないんでしょうね。それを知っていますよという人をふやすのは、どういうふうにやったらいいかということが。

○C委員

この前の住民投票だって、そんなものを知らなかったという市民の声が多くて。でも、市民に問題があると思うんですけれども、市が行っているアンケートとか、何とか調査を市は一生懸命やってくれているのに、そこに反応する市民の無関心さ。回答が7%ぐらいで「よくできました」になるんですって。よく回答が上がってきましたと。7%でよい回答とはどういうことですか、みたいな。市のほうも致し方なく、その回収率でやりました的なものにしていて、そこをたたかれてしまうわけです。7%ってどういうわけ？みたいな。だけど、市民のほうがあまりにも無関心過ぎて、やっと7%という回収率になっていくということは、市民の意識をもうちょっと市に向かせる工夫も必要かもしれないなど。それが施策に入ってくるのかどうかはわからないですけれども。

○A委員

こればかりは、こういう場に参加していくというわけにいかない。市政にかなり関心があるから来ているだけであって、ほかの一般の人たちは、勝手にどこかで決まってるんだろう、ぐらいの話で。

○C委員

そうですね。自分に直接影響のないものは一生知らなくてもいいかも、みたいな感覚にも。

○B委員

自分の生活に何の支障もなければ、市民は市政にあまり関心を持たないという方が多いですよ。国政には絡むけど、市政まではと言うんです。市政は任せたいな感覚の人がすごく多いような気がする。

○C委員

国に向いている関心を市に向けてほしい。国よりもまず市でしようみたいな。

○D委員

ちょっと話が変わっていいですか。言っておかなければいけないかなと考えてきたんですけども、平和と市民生活で今までお話が多かったかなと思うんですが、長計のほうで基本施策の2で「災害への備えの拡充」というのがあるんですけども、皆さん、ご存じのように、先々月かな、東京都のほうで首都直下型の地震の被害想定が新しく出たんですね。そうすると、10年前の東京都が出したものに比べて、武蔵野市のほうで火災の延焼とか、災害の被害がふえているんです。市のほうでもいろいろ木造密集地域とか、耐震化の施策とか、頑張っているとは思いますが、それでも被害想定がふえているということは、スピード感が追いついていない。それは市民のほうで自助・共助というか、火災の火元を起こさないとか、起きたらすぐ消せるとか、お年寄りの一人暮らしのところにすぐ駆けつけていくとかということで、震災はすぐ起こるものとして捉えながら、自分たちで自覚していかなければいけないのかなと思って。それで被害の想定を見てみると、火災の延焼が怖いと思ったので、それは自分の家もそうなんですけれども、周りのお宅にも被害を及ぼすことですし、火元の注意を何とかみんなで見守ってやっつけていかなければいけないかなと思いました。

それと、前回、先週、人材バンクを、F委員とか若い世代のバンクとか、A委員もスポーツとか障がい者のために何かできないかとおっしゃっていて、ここで人材バンクのような情報があるといいよねという話だったじゃないですか。今回の施策の4のところに「地域社会と市民活動の活性化」という施策があるんですけども、団体とかグループで市民活動をされている方々も今いっぱいいらっしゃいますし、プラス、企業とか大学とか、A委員もおっしゃっていた、個人でも何か参加できないかというところは、前回の議題にもありましたけれども、今回の市民生活でも何か挙げたいなと思うんですね。やりたいという人たちが気軽に活躍できる場がふえていくといいかなと思って。そういう仕組みができるといいかなと思ったんですね。どの議題にもそれは関連してくるなと、福祉のときに出ていたんですけども、今回の施策のところにも出てくるなと思いましたがね。

これを見てみると、B委員が一番最後に書いていた買い物支援でしたっけ。高齢者の支援。あれにも通じるのではないかなと思うんですね。

○B委員

今、自分が所属する防災の組織では、ことしの目標として、「無事です」とか、そういったものを玄関前にペタッと張るとか、そういうふうにして。例えば、10世帯ぐらいの間隔で、その世帯のグループみたいな。アパートでもいいんだけど、グループをつくりなさいよ、ではなくて、その中で、隣近所を見てくださいという形。「無事です」というのが出ていれば、その家をあえて確認に行く必要はないから、出ていないところを確認に行く。そういったことが避難所運営の役員に求められている。少しでも軽減して、災害を早期に発見する。それはどっちかという生命的な問題だけだね。

火災などの問題になってしまうと、きのう、一昨日か、立川の防災会に行ってきたんですけども、講義に出てきたんだけど、とにかく各家庭で消火器を用意する。火を出さないということがまず先決だと。火を出してしまったら、天井までいってしまったら、自分の命が危ないから、これはしょうがないから逃げる。命の問題になってしまうから。そこまでいかないうちだったら、とにかく火を消す努力をする。

データが、被害がふえている。それは、逆に言うと、東京都全体では減っている方向に出ています。

○D委員

そうなんですけれども、武蔵野市を見てみると、多摩東部直下型地震の欄に被害が多くなっている。

○B委員

古いマンション、老朽化して建て替えなければいけないだろうというかなり危ないマンションの危険性のほうが高い。木造の家は、耐震化と耐火性を持った建物に建て替えられている。けれども、古いマンションのほうが煙突状態みたいな話です。どこかで火が出ると、一気にドーンと。

○A委員

この前出た、東京都の被害想定では、武蔵野市の震災関連の火災というのは、より重くなっているような状況があるんですか。

○D委員

はい。10年前と比べると、直下型地震がどこで起きるかという想定が少しずつ違うんですけども、最大の被害という数字だけで比べると、ふえているんです。

○C委員

今まで言われていなかった多摩東部直下型地震というのが想定されたんです。震源が都

下のほうではなくて、この辺りが震源になって起こる地震というのが想定されて、今まで武蔵野市は大丈夫だとずっと言われていて、被害想定のところには武蔵野市という名前は出てこなかったのが、今回、東部直下型という震源の地震が出てきたときに、武蔵野と三鷹が名指しで入ったんです。被害を一番受けるのはそこでしょう、みたいな。

○B委員

何カ月か前に西荻の周辺に地震が起きていますからね。

○C委員

そうなんです。ああいう変なところで起きている地震が最近ふえてきていて、多分、東部直下型地震。震源とする地震が起きるという想定に東京都が変えたんです。そのときに武蔵野市と三鷹市が被害が大きくなるだろうという地域で想定されていて、先ほども言っていましたけれども、地域防災計画が平成 27 年に立てられたのが、東京都が想定を変えてきたということを中心に、武蔵野市も見直しをしますという最中になっていると思います。

市民アンケートをとると、防災に関してというか、安心・安全のところに反応する市民は結構いるんですけど。そのわりには、実際にそういう計画を改定していますよという情報が知らされていないと思うんですよね。だから、市民は、心配、心配みたいに思っている比率が高くなってきてしまうのかもしれないんですけども、市としては、見直しをかけて策定中というか、検討中ということを実際に行っているのに、それが現場に伝わっていない。市民レベルの現場に伝わっていないというのが本当に残念。

あとは、各地域に避難所運営を含めて自主防災組織が組織されているんだから、そこから地元というか、近くの住民の人たちに情報発信をしていく。それも多分、市の共通の情報は共通な情報として同じように発信していかないと、またそれがどこで聞いたのと内容が違ってくるよとなると、市民も、えっ、あっちでこう言っていたのに、こっちでこう言ってる、みたいなことになっていって、余計不安が募る原因にもなったりするかなと。

あと、庁内の関係各部署の連絡というか、情報の共有がすごく弱いと思うんですね。この課のことはこの課のこと、この課のことはこの課のこと。でも、防災とか福祉は、みんなが協力していかないと成り立っていかない気がするんですよね。なので、庁内の仕組みも何かちょっと。

○B委員

5分前というので、基本施策の5。文化のほう。

公会堂の建て替えという問題があるので、私はどうしても美術館と歴史館をホールを上にも構える建物に構想としていただきたいんです。さらに、土地があいていれば、第3分団の詰所の移転とか、今、うちのほうで構想として、地域防災館、それを進言しようとしているんですけども、その中で特に美術館。吉祥寺図書館管轄だけで預かっている貯蔵の作品が千数百点。これが保存されているのは、専門の業者に保管してもらっている。その保管料を市が払っている。だけど、この絵そのものを資産価値が評価されているのかどうか。そんなこともわからない。よその自治体から見ると、これだけの作品があったら、吉祥寺美術館をあそこに構えたってうらやましがられるほどお客さんが来る。かなりの作品数なんです。

今の公会堂の建築計画は、老朽化している部分を直して、あるいは一部修繕してみたいな計画が文面として4つぐらい挙がっているんだよね。1つは、チャラにして建て直ししましょう。その建て直ししましょうの中に何を構想として入れるのかなということは一言も出ていない。挙げ句の果てに、井の頭通りに小田急バスの7つの停留所があって、1車線埋めているので、交通の邪魔なんです。その整備のために、公会堂の前がこれだけくぼんでつくって、1台がその中に入って、1つの停留所だけ入ってどうするのと。そんなことは全然言い逃れにも何もならない。

<発表>

○A委員

Aグループの発表をいたします。話題が多岐にわたっているので、かいつまんで、できるだけ短くお話ししたいと思います。

まずは平和についてですけども、中島飛行機があって、かつてはそこが爆撃を受けたということで、そこだけがクローズアップされていますけれども、この班の中に、いやいや、それだけのことじゃないよと。自分は、ご先祖様が借地を持っていて、そこは定期性の預金が担保としてそれを支えていたんですけども、それが没収されてしまったと。国庫に入ってしまったということで、中島飛行機だけがクローズアップされているけれども、もっと別な面で、個人レベルでいくと、そんな悲惨さもあるんだよという話が出ました。ということで、財産とか資産が守られる必要がありますよということですね。

次に、多様性の社会ということで、LGBTとかを含めて、そういうのを認めていこうということになっているんですけども、例えば、市の職員の採用についても、そのこと

で差別はしないよということはあるんでしょうけれども、ここら辺がなかなか明らかになっていないという話が出ました。

それから、前々から出ているんですけれども、外国籍の市民のサポートは必要なんだろうけれども、それに絡めて住民投票問題を引っ張り出してくるというのは、どういう因果関係からそうなったかわからないねという話。

それから、居住の3カ月以上ということがありましたけれども、長さよりも、いかに外国籍の住んでいる方が武蔵野市の市政のことを考えているかということだから、居住の短さ、長さには関係ないのではないかという話が出ました。

それから、多様性は認めて、差別化をなくすということは、継続して訴えることが、市民レベルはより一層この問題は重要であるということ認識させるということなのかなど。というのは、市として多様性を認めるということを使い続けているけれども、具体的に何につながっているのというのがよく見えませんねという話がありました。

その中で、パートナーシップ制度というのが武蔵野市で認められているのということをごこの班で疑問に思ったんですけれども、事務局によると、既に認められていますよということで初めてわかったんですけれども、ということは何を言いたいかということ、それだけ広報活動もまだまだ足りないのではないかという話が出ました。

それから、東京都の震災予想がちょっと前に出た中で、多摩東部の直下型地震というのが新たにクローズアップされてきて、それによると、武蔵野市の震災による火災の延焼は前よりも大きい被害想定になっていまして、ということで、1つの大きな変化があったということで、こういうものに備えるためには、地元の連携を含めて、もっと対策をしないとけないのではないかという話がありました。

最後に、武蔵野市の美術の貯蔵品が1,000点以上あるそうですけれども、これが現在業者が預かっていて、こういうことの対策として、吉祥寺の美術館をつくって、今の公会堂の古くなった建物を利用したらいいのではないかという話も出ました。以上でございます。

【Bグループ】

○G委員

順番でH委員からよろしくお願いします。

○H委員

きょうの3つのテーマにもかかわってくると思うんですけれども、平和・文化・市民生

活というカテゴリーの中に、災害への備えというのが施策2のところに入っているんですけども、「平和」という言葉が今回から入ったと聞いているんですけども、災害に向けてとかというニュアンスが平和・文化・市民生活からは聞こえてこないというか、感じ取れないので、この辺、ここのタイトルに入る何かいい言葉、災害への備えとか、災害に強いまちとか、そういう言葉が出てくるようなぐらい、この分野を少し力を込めたらどうかと考えてきました。

それは、おそらく次の緑・環境というところにも関係してくると思いますけれども、とにかくいろいろなところに分断されているような印象があるので、例えば、災害への備えというところは強く打ち出す。カテゴリー化するというか、それで1項目立ててもいいのではないかというぐらい強く感じています。ひとまずそれだけにします。

○G委員

次はI委員。

○I委員

H委員がおっしゃられたことと同じなんですね。テーマがすごい広い。まさしく災害への備えというのは喫緊の課題なんです。柱としたほうがいいぐらいの。それが入っていない。ただ、ほかの施策も非常に重要で、行政がやるということではないようなものも結構多いので、非常にとっつきづらいなと思います。

ただ、何点か気になってお話しさせていただきたいのは、今、いろいろな国際的な問題が起きているだけに、国際交流。若いときから国際交流をより積極的にやっていくということが、地道ですけども、中心になればなということ。

もう1つは、産業の振興ということがあるんですけども、武蔵野市の大企業という、すかいらーくや横河電機だと思うんですが、こういった企業を盛り上げるようなことを何かやってもいいのかなと個人的には思っています。地元密着で、企業と武蔵野市を盛り上げて欲しい。

特に全体の話になるんですけども、文章が具体性がないというか、非常につかみづらい。今回、私も反省して、予習していろいろな資料を見てきたんですけども、なかなかこれはつかみづらい。これぐらいのコメントで。

○J委員

この分野は、私、普段の市民活動としてやっている分野なので、言いたいことはいっぱいあるんですけども、今回、調整計画ということで、新たな視点ではなくて、この2～

3年、社会が変わってきたことについて述べさせてもらいたい。

その前に、さっき、3番の大きい見出しと災害が結びつかない。特出しにしてもいいのではないかということですが、基本的な六長の8つの重点施策というのがある、その中で取り上げているんですね。この中では1つの基本施策になりますけれども、この中から重点施策が特出しされているので、そういう意味では、災害については埋もれた施策ではなくて、表に出てきている大きい施策の1つだろうと思います。

基本施策の1から。「平和施策の推進」とあるんですけれども、私、武蔵野市の非核都市宣言平和事業実行委員会に入っているんです。第1段落の一番最後に「平和施策のあり方について、新たな展開を検討していく。」というんですけれども、やった覚えがないなという感じで、この部分は、この2～3年の社会の変化と、そうじゃないかもしれないですけれども、ウクライナの戦争があったり、さらに平和を推進していかないといけない状況に今なっていると思うので、ここはもっと強くやっていったほうがいいかなと思います。

実は、武蔵野市の公教育で平和教育をやっていないんですね。

○G委員

やっていないんですか。だって、北村西望さんがあそこで平和記念像をつくったわけじゃないですか。それでもやっていないんですか。

○J委員

やっていないです。中島飛行機が空襲に遭ってもやっていないです。

○G委員

それは小学校、中学校？

○J委員

両方ともです。中には、そういうことに興味がある先生がいれば、その先生が個人として授業の中に取り込むことはあるかもしれないですけれども、カリキュラムとして存在していないので、教育の中に盛り込んでいったらいいのではないかと思います。

次の(2)で多様性なんですけれども、LGBTQですね。科学的というか、統計的というか、特別な存在ではないんです。思い出した。先週だか、とある議員の会合で、同性愛は精神病だと、とても現代的ではないことを公人が。それをよしよしと思っている人もいます。なので、これは学びですか。本当はそういう環境があればいいんですけど、ないからこういうことになっているので、LGBTQのことを学ぶ機会があったほうがいいのではないかと思います。

次に、外国籍市民ですけれども、今、武蔵野市で、これは国から言われてやっているんですけれども、多文化共生推進プランというのをつくっているんです。国自体が持っていて、各自治体はつくりなさいということでつくっているんですけども、1と2の平和と多様性については、男女共同参画についてはプランがあるんですけども、平和と多様性については、武蔵野市はプランを持っていないんです。それはあったほうがいいのか、要らないのかわからないですけれども、しっかり考えて、つくるのであればつくってもらって、つくらないのであったとしても、これは、横断してあることだと思うので、ちゃんとここを考えながら埋めていかないといけないかなと思います。

次に災害のほうへいきまして、(2)で自助・共助の言葉が出ているんですね。実際、自助がないと、発災時、やっていけないです。公務員の方も市民だったり、または遠くに住んでいたり、市民を助けてくれることはないです。自分で助けるか、近所の人で助け合うか、それしかないです。だから、すごく大切なことですね。なんだけれども、武蔵野市地域防災計画という分厚い本があるんですけども、これはバリアフリーについての視点がないのではないかなと。障がいであるとか、高齢者だとか、ないのではないかなということで、ちょっと調べていったら、よその自治体なんですけれども、これは土浦市なんですけれども、障がい者向け防災無線機だとか、障がいのある方とサポーターの方、障がいのある方、高齢の方を中心にと、ここに特化されていた。例えば、視覚障がいのある方、聴覚障がいのある方、昨年、初めて、ワクチンの接種を始めたときにWEBで申し込みをしたんですけども、視覚障がい者は難しいです。音を出すことはできますけれども。そういうこともあるので、あらゆる点について、障がいだとか、そういうところの視点を入れていったほうがいいのではないかなと思いました。

ほかに言いたいことはあるんですけども、飛ばします。

エコ re ゾートが開館したので、基本施策5で、多様な文化。武蔵野市は、文化ナントカの大綱というのを総合教育会議か何かでつくっているんだと思うんですけども、文化の定義というのが、武蔵野市の定義の中にもものづくりの考え方がない。ここ数年でエコ re ゾートという施設ができて、広い工作ができる場所があるんですけども、決してそこは工作の場所じゃないんです。あそこでできるんですけども、主な目的は、環境学習のためのというのはあるんですけども、ものづくりという観点が文化の中に入っていないのが昔から気になっています。今回、エコ re ゾートができたから、言えるかなと思って言いました。

最後、基本施策6の中で、スポーツ推進計画がこの間できたんですけれども、その中で、さっきもあつたんですけれども、市民プール、10円プールをどうしよう。六長調の中で議論するとなっていて、個人的には10円プールは存続してほしいなと思っています。以上です。

○H委員

挟んでしまうんですけれども、教えてもらいたいですけれども、文化の定義というのは、後で言おうかと思ったんですけれども、サイエンスの分野がちょっと弱いなというのがあって、ほかの自治体だと、子ども科学館を持っている自治体はたくさんあるんですけれども、その辺のことで過去のことをご存じだったら、そういう話があったことがあるとか、そういうのを教えてもらえると。

○J委員

僕が知っている範囲では知らないですけれども、パブコメで書いていることはあるけれども、僕が個人的に書いていることはあるけれども、市でそういう動きがあるかどうかはよく知らないです。

○H委員

ものづくりというのはすごく共感するんですけれども、科学というのも1つの文化、芸術とかと並んで。

○J委員

その話をすると、サイエンスフェスタのことが回答で返ってきます。ただし、常設ではなく、スペシャリティとして。

○H委員

箱物をつくるみたいな話になってしまうから、あればいいという話では全然ないんですけれども、プラネタリウムを持っている自治体があれば、小学4年生がそこへ行って星を観察するわけです。市営のものがあれば。武蔵野市立の小学校はどうしているのか。

○J委員

やっているところ、例えば、あそべえの企画として移動プラネタリウムというのがあって、1年に1回。そういうところはあります。

○H委員

その程度ですね。

○J委員

サイエンスフェスタは、小金井の学芸大でやっているのはすごい大きいイベントがあつて。

○H委員

学校につくれという話ではないけれども、そういうところが弱い。文化と言うんだったら、科学の面も、次代を担うとか、リテラシーの問題を含め、科学ももうちょっと打ち出して。

○J委員

科学もものづくりになると、工作機械だとか、ものがあるので、場所がないとだめだというのがあって、そのわりに劇場が多かったり、会議室がやたら多かったり。

○G委員

英語だけに力を入れようみたいな感じに見えちゃうときがある。

○J委員

英語は、立川だったか、英語の施設をつくるとか言って。

○H委員

すみません、挟んでしまって。

○K委員

私自身は、基本施策の「多様な学びや運動・スポーツ施策の推進」の中で、82 ページの(3)「図書館サービスの充実」に絞って簡単にお話ししたいと思います。

まず、1つ、結構早い時期に始まったなと思うのが、デジタル資料の取り扱いだと思います。去年の3月から電子書籍貸し出しサービスが始まって、これは全国の図書館の中でもスタートしたのが比較的早かったと思うのですが、物としての本が主流だというのは、私も、これが変わるということはないと思うんですけれども、今の時代に電子書籍という、2つ意味があるんですけれども、電子書籍というのとオンラインデータベースというのは、2つ概念が違うものであるんですけれども、電子書籍というのは、通常、何冊かで、図書館に行かなくてもいい。決まった期間内に2冊まで借りられるというやり方があって、この間、私も初めて借りてみたんですけれども、夜中に思いついて借りようと思っても借りれますし、期限がくれば、自動的に返したということになってしまうので、返し忘れるというのもないですし、なかなかいいやり方だなと思うんです。ただし、圧倒的に現状では本の数が少ないんですね。出版社の考え方、著者の考え方、いろいろな考え方があって、多分、未来も普通の出版されている物としての本にとってかわることは難しいと思うんです

けれども、武蔵野市が早い時期に提供を始めたというのはいいことだと思っていて、今後もぜひ研究を進めていただいて、やっていただきたいなと思います。ただ、私も含めて、こういうをやっていることを知らない人が多いのかなと思うので、その辺も課題かなとは思っています。

もう1つは、これに関連するかもしれないですけれども、オンラインデータベースの利用というのがありまして、けさも私は午前中プレイスに行って、B1に行くとそのができるサーチバーという名前のパソコンが10台並んでいるところがあるんですけれども、そこで最大60分、いろいろなデータベースにアクセスができるんです。それがいろいろなのがあって、主要な新聞もありますし、個人的には日経テレコンがすごいデータベースだなと思うんですけれども、あとは、官報、百科事典、法令集、いろいろなのがあります。これはライセンスの関係で自宅のパソコンで見るというわけにはいかないようなんですけれども、これは今後結構使えるのかなと思ったんですけれども、これも実際にニーズがどこまであるかというのはあるんですけれども、知らない人が多いのではないかなと思うんですね。きょうも午前中、小1時間いましたけれども、10台のパソコンのうち、使っていたのは私だけで、ほかは全然使っている人がいなかったという状況なので、まだ過渡期なので、どこまで使えるかというのは、まだ研究の期間かもわからないんですけれども、これもどんどん使えるものであれば、宣伝して進めていったほうがいいのかなと思っています。

あとは、細かいところで2点あります。武蔵野市の図書館は、単純に吉祥寺、中央、武蔵野プレイスというふうな場所に依拠して1館ずつつくっているのではなくて、それぞれに使命があったはずなんです。図書館基本計画を読むと、そう書いてあるんですけれども、プレイスのことは何度も話題に出ているので置いておきまして、吉祥寺図書館が問題だと私が思うのは、あそこはどうしてもスペース的に一番小さいし、蔵書も少ないんです。ただ、あそこは、こういう言い方をしているんです。吉祥寺の駅前情報拠点で、吉祥寺のまちに来る人を含む幅広い層に対応する。それから、次なんですけれども、吉祥寺の地域密着情報の提供や発信を通じて、まちの文化振興、地元産業振興という分担になっているそうなんです。現状においては果たしてそこまでなっているかどうかというのが疑問な点があります。

確かに吉祥寺図書館に入りまして、真っ直ぐ行った突き当たりのところに「きちとしょトピック」というので、いわゆる吉祥寺本を集めたコーナーはあるんですけれども、非常にさびしい状況であるのと、そもそもが、ほとんどの資料が借りていていい資料なので、

借りていけば、当然ないわけですよ。そういうあり方でいいのかなというのが気になって。もし、これを本当に、場合によっては吉祥寺に遊びに来る方、観光に来る方も寄っていただけるスポットの1つとして宣伝をして、それなりに充実した場所だということで認識できれば、特徴が生かせるのではないかという気はいたします。

最後ですけれども、これまた賛否両論あると思うんですけれども、いわゆる視聴覚資料です。視聴覚資料というのは、CD、ビデオ、DVDのことですけれども、昔、吉祥寺図書館にもCDは置いてあったんですね。今は吉祥寺は全部撤去して、全て中央図書館で一括管理しているんです。今の時代、音楽を聴くときにCDを借りて聴く需要があるのかどうか、私は疑問なんです。吉祥寺図書館が仮にそうされる前は、時々そのコーナーを見ただけなんですけれども、結構マニアックなものなんです。マニアックというのは、懐メロ的なものなんです。おじいちゃん、おばあちゃんが若かったころによく聴いたようなものなんです。それはそれで価値があるのかもわからないですけれども、当然、最新版なんてあるわけがないんです。それをやっていたら、幾らお金があってもきりがなくて。それこそさっき言った、デジタルのものを充実させるのであれば、それに結構お金がかかるはずなので、視聴覚のものについては、私が思うのは、CDとかビデオですね。ビデオデッキも、うちはどこか行っちゃってないので、あと、DVD自体も、買わなくなりましたし、借りなくなりましたし、多分そういうお店も減っていますし、それを思うと、早急に見直しの検討をしていただいて、全部やめちゃいなさいというのではなくて、本当に歴史的に図書館にしかないようなものはあるのかもしれないので、その辺は検討していただくのがいいのかなと思います。

図書館に関して、その3つを申し上げました。

○L委員

一番私のほうで思うのは、市民同士の連携というか、特に「地域社会と市民活動の活性化」という基本施策4がありますけれども、その中で、市民同士が連携していくことによって、地域社会のコミュニケーションがとれて活性化していく中で、それが1つは防災にも役立つだろうし、いろいろな面で役立つと思うんですが、市民同士の語らえるような仕組みだとか、行事を含めて、そういったものをもう少し盛り上げていながら、市民が簡単に参加できるようなまちぐるみの組織をこれから少しずつつくっていくことが大事ではないかと思います。

特に、これから老人が、高齢者がふえていく中で、高齢者の方々は、健康な方は時間も

あるし、いろいろなことで外へ出たい欲求は当然あると思うんですが、そういった要求を受け入れながら、市民同士の連携だとかコミュニケーションがとれるような、町内会ではないんですけども、そんなものがもう少し政策として出してほしいなという感じがします。

それと同時に、これから外国籍の方もだいぶふえてくると思いますので、前回のテーマでもあったように、外国人がふえていく中で、先ほど言ったような市民同士の1つの連携を含めて、その中に外国人の方も巻き込んでいけるような外国人に対するフォロー策。多分、日本へ来て間もない方は、市で生活する上で、いろいろなことで戸惑うことが多いと思うので、そういった方を包括的に支援できるものをもう少し充実させたほうが、より外国人の方が武蔵野市に集まってくるのではないかと思いますし、それが1つの労働力の向上にもなるし、いろいろな意味で、これから、市民、外国人を問わず、いろいろな意味でコミュニケーションがとれて連携ができるような組織づくりが大事になってくると思うので、それをぜひ進めていっていただきたいなという感じがします。以上です。

OG委員

私が思ったのは、これは結局、1個のことだけではなくて、みんな重複していると思うんです。84 ページに「農業の振興と農地の安全」があります。ここの中で感じたのが、農地を農地として、今、活用できていない感じがするので、それをうまく活用して行って、当然、従事していく人も減っていくと思うので、その育成も兼ねてということを考えていて、これ、皆さんが体験できればいいなと思っているんですね。子どもたちも年齢も、外国人であろうが、何であろうが、皆さんがこれを体験して農業のよさをちゃんと理解する。そして、武蔵野は、かつて、ウドをどこのところでもつくっていたんですけども、今、つくっている農家は1軒とか2軒とか、本当に少なくなっているんですね。だから、何か武蔵野のブランドになるような野菜ができればいいなと思っています。

また、それ以外の野菜でもたくさんつくれば、学校の給食に使ったり、フードバンクのほうで何か役立ったり、結構使えると思うので、農地をもうちょっと活用できるようにということを考えています。そうすると、さっきおっしゃっていた、いろいろな人との触れ合いにもつながるので、大事なことかなと思います。

それと、さっきも伺いましたけれども、教育は、平和の教育にしても、何にしても、武蔵野市は教育に関して弱いところがあるのかなと思っています、平和は特に感じます。武蔵野市はいろいろなところで結構文化人の人も巣立っているし、野口雨情さんも北町で生活

していましてということがあるので、そういった意味でも、教育になるような題材とか材料はいっぱいありますし、北村西望の彫刻は意味があることなので、あそこでつくって平和祈念像を持っていったわけですから、そのことを子どもたちがもし知らないとしたら、それはそれで逆に不幸なことだし、世界にこれから出ていくときに、武蔵野市であればつくられたんだよということを知っているということはとても誇りに思うべきことなので、そういう教育というのはとても大事だと思うんです。だから、男女平等にしても何にしても、演劇とか紙芝居でも何でもいいんですけれども、そういった形で子どもたちにわかるように教育ができれば、楽しみながらできるのではないかと思います。以上です。

○H委員

平和教育にあまり力が入っていないとおっしゃっていたんですけれども、私はこの辺に住んでいるんですけれども、まさに中島飛行機の跡地に住んでいるんですけれども、この辺には戦争に関する看板が随所にあって、四中の前辺りにもありますし、パークタウンの中にもありますし、看板はあるんだと思うんですね。最初に空爆を受けたところだとか、空襲を受けたところだか、どういう会社だったのかとか、そういうものはちょっとはあるのではないかなと思います。多分地域によって、武蔵境のほうとはまたちょっと雰囲気が違うのかなと。ただ、市としてやっていくときに、武蔵野市と括ったときに、もうちょっと力を入れたほうがいいのかというのは全くそのとおりでと思います。

○J委員

カリキュラムとしてないんですよ。

○H委員

そうですね。

○J委員

心ある先生だけが頑張っている。

○H委員

この辺の小中学生は歩いて、結構そういうがあるので、見かけるのではないかと思いますけれども、外れてしまうと状況が違ふと思います。

○I委員

この辺りも通りますけれども、全然気づかないです。

○J委員

体験談誌にもちょっと出ているんですけれども、吉祥寺の不発弾の話がちょっと載って

いますね。町中にはないかもしれないですけども、体験者がつづった文書の中からはでてくる。

○G委員

最終的には、これからのことを考えると、学校教育というふうにつながっていくのね。

○J委員

広島市なんて県を挙げてやっていくわけじゃないですか。こういういい題材があるんだから、武蔵野市もできるのではないかと思います。

さっき1つ漏らしてしまって。すごく大事なところなんですけれども、78ページのピンクの枠の中で、「本市ではコミュニティ構想に基づき」。昭和46年、コミュニティ構想に応じてコミセン政策が始まったという話があったと思うんですけども、私はコミュニティセンターによく行く人なんですけれども、コミュニティ活動をしている人のほとんどはコミュニティ構想を知らないです。実際に活動している市民が基づいていないんですね。すごくいいことを書いてあるので、コミュニティ構想を周知できないかなと思っています。

○H委員

それが大事なら、1番目に持ってきたほうがいいんじゃないですかね。4番目じゃなくて。ずっと大事にしているものは、引き続き前面に出し続けて。

○J委員

難しいんじゃないですか。

○G委員

コミュニティ構想というのは具体的にどういったことなんですか。

○J委員

武蔵野市民がどうやってコミュニティをつくっていったって、どうやって市政参加をしていったって、みたいな。武蔵野市は市民がつくっている市なので、市民の議論が大切なんです。こういう感じで、今、我々も市政参加しています。そうやって武蔵野市をつくっていきましょうという構想があるんです。そのためには何々をしましょう。市民はこういうことをやって、行政はこういうことをやって、みたいなのが書いてある。

○H委員

そういうのが3番目の括りの柱なんだと思うんです。これは寄せ集め感がありますね。いろいろ合わせて。ちょっと広いし。まとめるのだったら、理念を語るものなんだから、そこに武蔵野市が大事にしてきて、ある形になって、他市に誇れるようなものだとするな

らば、そういうものは常に一番最初で、そういうものに基づいて、そこから派生したものができているんだよ。1の(1)が平和施策について。「多様性を認め合う」と「平和」というのが、まず合わないというか、くっつけた感が否めないなと私は思っているんですけども、こういうのが1番目にきてはだめだと思うんです。もっと大事な柱がまずあって、それに付随して、この市はこういう考え方なんだよ。

○J委員

平和については、六長で初めて出てきて、デビュー戦なんですね。

○H委員

だから1番目なんでしょうけど、優劣のつけ方に考え方のポリシーが反映してしまいますよね。

○G委員

最初に持ってくるのが基本というか骨になる。骨になるものがあるって、そこに枝になっていくという。

○I委員

できてしまってから意見を言っても。これを言ったら元も子もないんですけども。

○J委員

調整計画の調整部分。議論するんだったら七長。

○H委員

七長に向けてということになってしまいますものね。

○J委員

平和の声が結構あったんです。

○G委員

と思いますね。

○K委員

武蔵野市のコミュニティ構想はなんぞやというのと、コミュニティセンターというのが各地区にありますけれども、私は一度も行ったことがないので、そもそも何をやっているところなのかなというのがあって、町内会館とどこが違うのかなとか、何十年住んでいてもその程度の意識しかない人間もいるんですよ。ましてや、新たに引っ越してきた方とか、若い人はちんぷんかんぷんかもしれないですね。

○J委員

だから、あの中にいる人たちも、こういうのがわからない。結構難しい。読み込むまで難しく、市民が読む部分は2〜3ページしかないので、大した量ではないんですけども、読んでも何だかよくわからないからいいや、みたいな。

○G委員

説明されても、いまいち漠然としているというか。

○J委員

去年、構想ができて50周年だったので、50周年の冊子ができたので、ぜひ読んでみてください。

○I委員

コミセンのお手伝いをして、コミセンの存在自体、いいなとも思うし、なかなか広がらないという悩みはあったかもしれないけれども、そこにご自身がかかわって、それこそおっしゃったようなコミュニケーションみたいなことで、博愛の精神でやっているの、僕はポテンシャルがあるなと思っているんです。

○J委員

その中でも、少ない一部の人の牽引力でどうにかやっているんですね。

○I委員

そうですね。多分、高齢化が進んでいて。

○J委員

そもそも本当にコミュニティ構想がわかっている人は数えるぐらいしかいない。

○I委員

結構若い人も来ているので。

○L委員

今、コミュニティセンターは市にどのぐらいあるんですか。

○J委員

16。

○L委員

コミュニティセンターの周りに住んでいる市民が、例えば市政だとか、武蔵野のことを知ろうと思ったら、自分の近くのコミュニティセンターに行けば、そこで全部教えてくれるとか、資料があるとか。

○J委員

中の人がわかっていないので。

○L委員

そういうコミセンにしたら、もっと市民が使いやすいし。ごめんなさい、私もコミュニティセンターの基本構想というのは理解していませんけれども、私がさっき言った、市民とのコミュニケーションをつくる場とか、いろいろな情報交換をする場がもっとあるべきだと思って、それがもしコミセンだったらいいのではないかという気がするんですね。

○J委員

コミセンは市民が議論するところです。

○L委員

しかも、議論するし、また、そこへ行けば武蔵野市の情報がもらえるとか。

○J委員

中にいる人がそれを求めているから、何とも言えない。個人的には平和関係は勝手に持ってきて置いたりする。

○L委員

市役所に来ないと情報はわからないというよりも、16、もしコミセンがあるのだったら、16のコミセンの近くに住んでいる市民が、例えば、武蔵野のことを知りたかったり、何か確認したかったら、コミセンへ行ったらわかる情報が一番いいかなと思うんです。

○J委員

全体的なものはないですけれども、例えば、こういうのが発行されたら、5冊ぐらい置いてあって、持って行っていいですよとか、そういうのは必ずあります。ちょいちょい見たら、行政文書があって、それを持って見てもらうんですけれども、オンラインでもやれますし。

○L委員

例えば、市民がみんな来やすいように、月に1回そこでイベントをやるとかね。

○J委員

そういうのはやっているんです。市報を見てもらうと、一番後ろのところにコミュニティセンターのイベント欄がありますので、あれを市民がみんな頑張ってやっているんです。

○I委員

皆さん頑張ってやっつけていらっしゃるんですね。

○J委員

一番議論が多いのは東町。

○L委員

あるいは反対に、さっきおっしゃったように、コミセン、知らないとか、何をやっているかわからないという市民がいっぱいいると思うんです。だとしたら、とりあえずコミセンに来てもらうための仕組みだとか。

○J委員

イベントでやっているんです。各年代者に合わせたものを組んだり、大きいイベントをやってみたり、小さいイベントをやってみたり。

○I委員

フリーマーケットやったり、バザーみたいなのをやったりしている。

○L委員

あるいは反対に、景品をつけるとか、スタンプラリーじゃないけれども、コミセン、例えば、3回来てもらったら何か商品をあげるとか。

○J委員

結構もらえます。結構予算があるので。

○L委員

それが市民に伝わっていないというのが問題なのかな。

○J委員

それはあります。市の市報だけでも限界があるので、一市民が無償で皆やっているんです。

○L委員

市民の方が無償で運営しているんですか。

○J委員

そうです。コミセンの宣伝も自分たちで印刷してポスティングしているんです。

○L委員

それは市から予算は出ないんですか。

○J委員

そこについては、物にはつきますけれども、印刷代とか。活動にはつかない。

○L委員

でも、市の広報機関として、ね。

○J委員

市の機関じゃないんです。独立した、市民に委託しているところです。だから、市に対しても意見ができるし。市の末端機関に入ったら、町内会と一緒にになってしまうので、そこが違う。

○I委員

今後より重要になってくるんですね。

○L委員

町内会的な要素をこれからどんどん入れていかないと広まらないかもしれですね。

○J委員

それは武蔵野市の行政がやることなんです。ごみ捨て場のナントカとか、そういうのは全部市がやることで、武蔵野市は、それは市民がやることじゃないと。市政について意見が言える人をつくらないと。

○L委員

それは大事ですね。それはコミセンがベースになっているわけですか。

○J委員

そうです。ここでは、たしかコミセンとは書いていなかった。結局、コミセンという形。コミュニティセンターをつくることにはなっていたんです。それでいい。コミセンでいい。

○L委員

これからはコミセンのあり方が重要なポイントになりそうですね。

○J委員

武蔵野市のキーなんです。

○I委員

ほかの委員の方から、理科、科学のお話があったんですけども、横河電機とか、成蹊大学とか、地元にある組織、機関と適切な距離をとってですが、コラボして子どもを教育できるような機関というのができても、ウィンウィンでいいのではないかと思うんです。理科に興味を持ってもらう事業が大事だし、武蔵野市にあるものをうまく使ってできたらいいかなと、ご意見を聞いて私も思いました。

○J委員

市でやっているのは、サイエンスフェスタというのがあるじゃないですか。その中で、たしか成蹊大学の工学部の先生がブースを出してくれているんです。

○I 委員

横河は何もやっていないんですか。

○J 委員

やっていたかなあ。

○I 委員

日本を代表するグローバル企業だから、武蔵野市の子どもを育てるということでは協力をしてくれる。

○H 委員

科学というか、スポーツのほうで多大な貢献をしていると思います。

○I 委員

本来、もっと得意なほうを。国際感覚に非常にすぐれている。武蔵野市を出ていかれないようにしっかりと。

○J 委員

今、HPというのがあるじゃないですか。ヒューレットパッカード。あれは昔、横河ヒューレットパッカードでしたよね。

○K 委員

そういうイベントをやるのであれば、成蹊大学であれば、先生は大変だと思いますけれども、工学部のどこかの研究室を借りて、きょうはこれをやるよ、10 人来てくださいとか、横河電機も会社の中に差し障りのない範囲内で現場に子どもを呼んで何かやらせるとか、見せるとか、そのほうがインパクトがある気がするんです。そこで、変なおいがするとか、いろいろなものが体感できると思います。熱いとか寒いとか。せっかくそういう施設が身近にあるのであれば、協力し合ってやったらいいと思うんです。

○I 委員

ものづくりと一緒に、泥にまみれるとか、そういう経験って特に小さい時大事だと思うんです。野菜の原型を知らない子は結構多い。

○J 委員

うちの、給食の食材には市の野菜を使っています。市の畑、農業は採算性がないみたいで、1人頑張っている人を知っていて、武蔵境の駅前にヤギがいる。あそこは、自分の生産をやめて、農業教室を始めました。

○G 委員

そういう人も中にはいるということね。だけど、市として何か一生懸命力を入れているという感じにはないものね。

○J委員

あそこは私有地ですね。あれが難しいです。

○G委員

でも、市にいっぱいいろいろなところが農地になるといいのよね。

○H委員

地産地消の問題を見ると、移動する手段の確立を行政なり農協なりがとられて、どこで売ったっていいわけです。農家は。ちゃんと市内の小学生の口に入るというふうにするためには、運ぶとか、安定的に供給するとか、この時期にはこれを必ずつくるとか、そういうコーディネートをする、市役所なのか、農協なのか。小平は先進的な市ですけども、農協が頑張っている。ただ、小平と武蔵野は同じ農協じゃないかと思えますけれども、JAむさしだと思うんですけども、ここでもできるはずですよ。あるいは、農協の人が小学校へ配達するとか、栽培計画を栄養士さんとちゃんと調整するとか、絶対できると思えます。小平でできているので。

○J委員

軒先の販売、ああいうのも楽しくないですか。わりに好きなんです。

<発表>

○G委員

Bグループです。よろしく願いいたします。

たくさん意見が出たんですけども、まず、平和についてですけども、確認したところによると、皆さんに伺ったら、武蔵野市の小中学校において戦争に対するカリキュラムとしての教育がないということなので、それは問題だなということで話し合いました。中島飛行機、平和の記念像をつくっているのも武蔵野市なので、そういうことを踏まえて教育をしていく必要があるのではないかということ。

そして、教育は何にでもかかわってくると思うんですけども、多様性とか、外国籍の人とか、多文化共生とかということは、全部教育の中でできると思っているんで、それは大変必要だと思っています。

そして、防災なんですけれども、自助というのは普通に皆さんがなさるべきことだと思

うんですけれども、地域防災計画の中にあっても、バリアフリー、高齢者、障がい者、この人たちがどのようにしているのかということが問題であるということをお話ししました。おそらく視覚障がいとか聴覚障がいという方たちは、情報を得るために大変苦勞すると思うので、避難しなければいけないとなったときに、どうしても後になってしまうということがちょっと気になりますので、その辺を検討できればいいかなと思います。

あと、いろいろな文化とか、そういうものの中で、ものづくりをする場所がないということです。エコ re ゾートというものはたくさんあって、箱物はたくさんあるんです。でも、実際にものをつくるということが体験できる場所が武蔵野市では大変少ない。そして、例えば、サイエンス科学館、子どもたちが科学を学べる環境も必要だと思うので、武蔵野市にある大きい大学とか企業に協力を仰いで、一緒に何か研究をしたり、皆さんがやっていることを子どもたちが体験する。目で見ると、においをかぐ、そういうことはとても大切なことだと思うので、できればそういうところで教育をしていただけるように市のほうでも考えていただきたいなと思っています。

それから、図書館に対してですけれども、3駅に3つ図書館がありますけれども、それぞれ役割が決まっているということみたいです。私は知らなかったんですけれども、吉祥寺は、地域に密着するようにして、例えば、遊びに来た人、吉祥寺に来た人がそこに行くとよさを知る。吉祥寺に行けば何があるか。このまちにはどんなものがあるのかということを知るきっかけとなるような、スポットとなるような場所になってほしいなということと、そのことは目的としてうたっているみたいなんですけれども、実際にはそのようになっていないようなので、そこら辺をそろそろ考えるべきかなと思っています。

そして、図書館サービスのことで、電子書籍とかオンラインのデータサービスも最近充実はしてきているのでしようけれども、その中でCDとかDVDがありますけれども、それがどのくらいまでみんなに行き渡っているのかということと、この状態のままでいいのかなということも少し考えるべきだと思っています。CDで音楽を聴くということも多分だんだん少なくなっているでしょうから、もうちょっと違う方法もあるのかなと思います。

一番気になったのは、コミュニティセンターを利用して、市が皆さんと一緒に連携できるように何かをやるということが大切なのではないかということでお話ししました。コミセンが今何をやっているかということがなかなかわからないので、その辺のことがちょっと問題だなと思っています。

コミュニティ構想というのがあっても、そのことの情報もないですし、それ自体がどういふものなのかも全くわからないので、コミセンをうまく利用して、みんなと交流がとれればいいかなと思っています。

【Cグループ】

OM委員

本日はよろしくお願ひいたします。

この3つのことで1つずつというと、苦手な分野もおありかと思うので、お1人大体5分ぐらいを目処にお話ししていただいて、残った時間でお話し足りなかったところを言っていただければいいのかなと思います。N委員はよく資料を見てきていただいているので、具体的な提案がほかの委員にもよくわかるので、N委員から始めていただいてよろしいでしょうか。

ON委員

私は、3つほどあるんですけども、83 ページで、前回も同じようなこととお話ししたんですけども、「産業の振興」がどうしても気になりまして、労働者人口がすごく減っていると。武蔵野市で働く人が減っている。特に工業の人口が減ってしまして、三千数百人だったのが10分の1ぐらいに減ってしまっていると。武蔵野市の中で働く人の職場を確保するというのも必要なのではないかと思います。

ただ、今さら製造業をといてもなかなか難しいわけですね。日本全体として競争力を失っていますから。だから、ここにもちょっと書いているんですけども、私としてはこのように考えているんです。コロナ感染以降、リモートワークが進んでいるわけですね。リモートワークを家でやろうとしても、家でリモートワークをする場所の確保というのは、お子さんがいたり、狭かったりして実は難しいわけですね。ですから、私は、サテライトオフィスといいますか、リモートワークができるような場所を武蔵野市として整備するか、あるいはそういう企業に支援をするかして、武蔵野市に住んでいて、家での仕事はできないけれども、例えば、三鷹駅の近くのあるビルに行くと、その中でリモートワークができる環境になっている。そういうところを整備したらいいのではないかと思います。そうすると、若い人を含めて、武蔵野市に住んで働こうという人が増えてくるのではないかと思います。思うことが1点です。

2つ目は、81 ページの「生涯のライフステージを通じた学習活動の充実」の一番最後

に「今後も、武蔵野地域五大学」と書いてあるんですけども、私は、市内に、あるいは近隣に5つの大学があって非常に恵まれていると思うので、今でもやられているようですけども、生涯学習施設と書いてありますけれども、学び直しということが中高年を中心に必要になってきているので、大学ともっと連携を強化して、いわゆるリカレント教育の推進をもう少ししたらどうかなと思いました。

これは、予算を見ると、ここにかかっているお金がたった100万円なんです。100万円というのはほとんど何も使っていないようなものなので、もう少し大学との連携、リカレント教育、場合によっては、大学の図書館の利用パスみたいなものを出して、それを受け取った人は図書館を利用できる。学校というのは、年の半分ぐらい休んでいるわけですよね。夏休みだ、春休みだ、何休みだとあって。ですから、図書館を使わせてもらうとか、大学との連携をもう少ししたらいいのではないかと。そのためのお金も必要があればいいのではないかとというのが2点目であります。

3点目は、具体的な提案はないんですけども、77ページの「安全・安心なまちづくり」です。ここに、刑法犯認知件数が3分の1になったと書いてありまして、大変よかったなと思います。というのは、私は10年以上前に、帰宅途中におやじ狩りに遭ったことがあって、数人の若者に取り囲まれて、大変怖い思いをしたことがあって、武蔵野市の治安も相当悪い時期があったと思うんですけども、そこについて改善が見られているので、ここに書かれているようなことを随分行われて、よかったなということ。これは感想であります。以上3点申し上げました。

○M委員

ありがとうございます。

次、O委員、お願いします。

○○委員

さっき挙げたお題で、73ページ、「平和施策の推進」というのがあるんですが、今、武蔵野市は平和事業をやっているんですけども、ちょっと失礼な言い方になってしまうんですが、参加されている方がわりと固定化している、高齢化しているというのがあります。じゃあ、それをどうやってボトムアップしていくかという、ボトムアップできないんですね。なぜなら、子どもたち、小中学校で平和教育がないんです。一部の小学校では、今、武蔵野市のふるさと歴史館を活用して、中央公園の武蔵野飛行場の空襲のこととか、そういった学びをしているんですけども、それ以外の平和の勉強がないところなので、

ボトムアップしていくには、平和・文化・市民生活から出るんですけども、子どもたちの学びがまず必要だと思います。

次が、74 ページで、外国籍市民のニーズとか支援です。私はこれまで外国人支援のこととはものすごく発言してきた経緯があるので、つい最近、多文化共生推進懇談会がありまして、そちらのほうを傍聴してきたんですけども、その中で外国籍市民アンケートをとったんです。秋ぐらいでしたか、とったんですけども、その結果が公表されて、その公表されたものはホームページにもアップされているんですけども、武蔵野市は、労働者というよりも、留学生の外国籍市民が多いというのと、あとは、いわゆる一般的な労働者というより特殊技能の労働者の方が多いという、ちょっとほかの市とは、差別的な人が忌み嫌うような外国人というのではない、またちょっと変わった構成の外国籍市民が多いという印象を受けました。

○M委員

○委員、途中なんですけれども、留学生と、もう1つは何ていう表現を使われましたか。

○○委員

ごめんなさい。高度専門職ですね。間違えて言っていました。高度専門職の方が多いという。

あとは、ご家族でいらっしゃる方もいるので、そういった形の支援でも必要なのかなというのがありました。

その中で話が出ていたのが、今、「やさしい日本語」という外国人でも読みやすい日本語表現についての話が出まして、市の中で統一した基準がないという話が出たんですね。それが気になっていたんで、六長調の中でそういったことも推進してもらえるといいのかなと思いました。

次が、75 ページの災害の備えで「自助・共助による災害予防対策の推進」ですけども、自主防災組織が、今、担い手が少ないとか、よくあるコミュニティもそういう問題を同じように抱えているんですけども、例えば、そういう組織を組んだところで、その組織のメンバーが発災時のときにそろっている可能性はものすごく低いわけです。なので、これからは組織づくりに目を向けるのではなくて、見ず知らずの人が、そのときに居合わせた人がワッと動けるようなプロジェクト型の、言い方としては組織という言い方になってしまうんですけども、そういう防災計画みたいなのを立てて、それぞれの地域で用意しておいたらいいのかなと思いました。

あとは、78 ページで、(1) のコミセンのことを主に書いてある項目ですけれども、コミセンにフリーWi-Fiが入るようになって、徐々に公共施設にフリーWi-Fiが増えていっています。ですが、公共施設の予約をするときに、いまだに直接その場に行かないと予約できないというのがあるんです。そういうのがあると、例えば、市外に働きに出ている人とか、そのとき休みじゃない人は、確実に遅れて、公平じゃないなと思っています。ですので、予約機能も徐々にICT化していくといいのかなと思いました。

あとは、実際、自分がコミセンでやっていて、人の手が入ると、聞き間違いがあったりするんですね。その予防のためにもネットとか、申込者本人が打ち込むような形にできるようにするといいなと思っています。

次が 81 ページで、(2) 「文化財や歴史公文書の保護と活用」というのがあるんですけれども、ふるさと歴史館の公文書専門員の方とお話ししたときに出たんですけれども、公文書の補足になるような市民が作成した、いわゆる公文書に対しての私文書とか、あとは、チラシとか印刷物も公文書の補足になるような形で市が保存していけるとおもしろいかもねというお話をしました。そういった面でも公文書の保護と活用の中に含めていただけるといいかなと思います。

最後に、82 ページの「図書館サービスの充実」についてですけれども、今、プレイスと吉祥寺図書館が水曜休館で、中央図書館が金曜休館なんですね。水曜日が、前もお話ししたとおり、小中学生、幼稚園も早上がりの曜日ですので、そういうときに図書館が閉まっているのは問題かなと思っています。ですので、水曜日以外で、あとは休館日が同じ図書館が、市内に3つしかないのに、2つとも重なるというのもおかしいことだと思っているので、休館日がばらけるような形で、そういった意味でも図書館サービスを充実してもらえるといいのかなと思います。以上です。

○M委員

ありがとうございます。

P委員、いかがでしょうか。

○P委員

私のほうは、逆にこれを読ませていただいて、武蔵野市、いろいろなことをやっていて、私が知らなかっただけなんだなと素直に思っているんです。ただ、先ほど言われた、産業が少々気になったんですけれども、製造業は無理だとしても、会社が少なくなったり、店が、コロナもあってなくなったりしているので、これを助成して、例えば、若い人が、う

ちの近くだと三谷通りがあるんですけども、若い人が新しく、だいぶあそこはシャッター一街だったんですけども、店をやり始めているので、そこを補助するとか、宣伝するというシステムができないものかなというのは、ちょっと漠然しているんですけども、あるんですね。そういうことを考えて、何かしら、若い人がたくさん入ってきて、市の人口が増えるような施策ができないかなど。随分高齢化して、知っている方もやめられているとか、コロナでもたなかったところもたくさんあるので、それを何とかしてほしい。これから補助してもらえると。

私の周りは畑が多いんですけども、吉祥寺に行くに従ってだんだん少なくなってきているんですけども、都内だと残っているほうだと思うんですね。これをただ残すというよりも、直売をしたりとか、地域農園にしたり、そういうのもコミュニケーションをとりながら、あつてすごくいいなとみんなが思えるような農業政策というか、特に 22 年問題があつて手放さなければいけないような状態に国の政策がなってきているんですけども、延長があつたりしていますから、22 年問題というのは、農地を一生やるか、30 年やるかというのを、30 年ぐらい前でしょうかね、迫られていて、そのかわり、農地の税金が安いというものなんです。野菜をつくる時、税金が一般的にその土地にかかる時、野菜が 1 個 1,000 円とか 2,000 円の値段になるような政策なんです。それが、農業は地域振興もあるからということで残してやってくれるのがもう少し継続したり、補助できたりできればなと思っています。

もう 1 つ、私が感じたのは、特殊詐欺と書いてあつたんですけども、これはどうやって減らすのかわからないんですけども、実は知り合いでもとられたとか、郵便局にお金を下ろしに行ったら、何万円かなんですけども、この間、実は恥ずかしながらそういうことがあつたので、何に使われるかと聞かれたり。どうやったらとまるかは私もわからないんですけども、何か止める方法なり、パトロールなりできないものか。結局、1 回狙ってうまくいったら、そういう方は同じところをまただませるだろうと思って来る。そういうのを通報して、1 回来たらリストにして、次に連絡がきたら捕まえる。わなを張るといわけではないんですけども、もう 1 回来たら捕まえるようなことができないものか。

あとは、周りの人がそれに気づいてあげる。多分していると思うんですけども、そういうことがもうちょっとできれば。見ていてかわいそうだったので。かわいそうな思いが減るかなど。少し平たいというか、そんなことを感じたので、できないかなというのがありました。

あと、おやし狩りに遭ったというのは、私は遭われたことにびっくりしたんですけれども、武蔵野市は安全だと思いながら、ちょっとびっくりしました。

○N委員

1つ間違ったら死んでいたかもしれない。囲われて殴られたら、倒れて頭を打ったら死んでしまいます。それで終わりですよ。かろうじて逃げたんですけれども。今はあまり聞かないですよ。

○P委員

そうですね。コロナで人がいなくなって、ちょっと違う怖さが。

○N委員

あのころ、昔の近鉄裏辺りにいろいろなお店があって、そこから流れてきた人が。

○P委員

あそこはそうですね。たまる方がいらっしゃる。

○M委員

では、Q委員。

○Q委員

私もP委員と似たような話からすると、農業、農家の方たちに、ぜひ、少なくとも今の規模を守って。私のうちのそばに農家があって、直販売して、結構使っているんですね。値段はちょっと高くても、その場で獲れた、畑がわかるものを食べたいということがあったりしますし、そこに皆さんが集まる憩いの場みたいなものを用意していただけると、もっとお互いに近づくことができるのではないかと思います。

次は、防災のところで、自主防災組織というのがあるんだなと自分では思っていたんですけれども、実際、自分がどこに属していて、どういう活動を皆さんしているのかというのは全くわからなかったです。調べてみたら、町内会とイコールなんだというのが今回初めてわかったんですけれども、そういう活動をしている様子もないし、回覧で情報が回ってくるわけではない。いざとなったら自分は何をすべきなのか、何をしたらいいのかというところが特定の人しかわかっていないのではないかと。皆さんその場にいる人、全員が何らかのことをやらないといけないということになるんでしょうから、そこは普段から自分の努力も含めていろいろな啓蒙的なものも市のほうからやっていただけるとありがたいということがあります。

あと、市民活動のところで、私は最初申し上げたんですけれども、そういう市民活動を

全くこれまでしてこなかった。時間ができたので、そろそろ何かやってもいいかなと思うんですけども、実際、どういう活動をどういう場でどなたがされているのかというところがすぐにはわからない。調べていけばわかるんでしょうけれども、全体の案内というか、こういう組織、団体があって、こういう活動をして、そこに行くにはこういう方法があるんですよというコンシェルジュみたいなものを用意してくれるとありがたいなというところと、受け入れる側はやさしく受け入れるとありがたい。こういう活動は、ある程度固定化して、新しい人が入っていくのが躊躇される部分があるんですね。自分が排斥されるのではないかというようなこともありますので、もしかしたら、そんなに長い期間行かなくてもいいのかもしれないし、気軽にそういう活動に参加できる体制ができるといいなと。これは高齢者もそうですけれども、大学生が4年間武蔵野市いる、その4年間だけでもそういう活動ができるようなことを推進していくのがいいのかなと思います。

あと、N委員がおっしゃられたように、大学が5つあって、もっとうまく活用、実際にはしている部分もあるんでしょうけれども、それがなかなか目に見えてこないということがあります。公開講座は無料で行けたりするんですけども、実際、大学で授業を受けると、費用が個人にかかってくるので、そんなに高い額ではないにしろ、少しハードルがあるということと、ああいうのは4月から始まるから3月ぐらいまでに申し込まなければいけないとか、後期だと7月までに申し込まなければいけないとか、いつでも学べるような場があってもいいのかなと思います。

あと、大学で言えば、総合体育館が数年後に大改修して、2年ぐらいまるまる使えなくなるようなようですけれども、そういった場合の公立の小中学校はもちろんですけれども、私立の大学についても施設なりを代替として活用できないのかなと思います。私は、体育館のジムに毎週1回は行っているんですけども、ああいう設備は普通の小学校、中学校はないでしょうから、民間のスポーツ施設に行くとお金がかかるので、大学だったら、週に一遍ぐらいは開放して、市民も使わせてくれたりということもいいのかなと思います。以上です。

○M委員

R委員、お願いします。

○R委員

たくさん意見が出たので、重複してしまうので、まず、一番このセッションで欠けている部分は、食料危機が迫っていますよね。ウクライナを初め、温暖化で農業が打撃を受

けている。そういう危機感を持つと、さっきの農地の活用だとか。昔、戦争時代はみんな、きっと自分のところでサツマイモだとかをつくっていた時代があったけれども、そんな時代にはならないことを望むんですけれども、考え方によっては、今の急激な社会変化は、そんな危機感をも何となく感じなければいけないかなと思うような状況だと思っているんです。そういうものが長期計画の中に、特に市民の生活という一番大事なところでどういうふうに反映されているのかというのが、不安ではないんですが、そういうところから考えていくと、課題ばかりを挙げてもしようがないんだけど、農地が、生産緑地が残っていたら、2022年問題をもう少し前向きに食料危機の視点から解消できることも可能かもしれない。それがあ意味では私たちの生活を守る。食料が一番大事なので、そんな危機が迫らないことを望んでいますけれども、ぜひそういうところを注意しながら、調整計画をつくってほしいなと思いました。

2つ目は、ここに「平和・文化・市民生活」と書いてあるんですけども、いただいたメールの参考資料の中に、平和・文化はないんですね。それはそれなりの理由があるんだろうけれども、計画が進んでいないのか、プライオリティが低いのか、よくわからないんですけども、意識の中で、私たち市民に平和と文化はとても大事な要素だと思うんです。文化の継承。武蔵野の文化って何だろう。私たちが、インバウンドの話も出ているんですけども、誇れる文化って何だろうということで、もう少しきちんと考える必要があるのかなと思いました。

武蔵野ふるさと歴史館に私も行ったんですけども、常設はそれなりのものがあるんですけども、展示内容がもう少し工夫があってもいい。ただ、そのアウトプットを中央コミセンは置いているんですね。ほかのコミセンも置いているのかもしれないけれども、そういうところの連携がもう少しきちんとすれば、文化、歴史に関する意識が私たちの中に増えてくるのではないかな。そういうのも具体的に読みたかったんだけど、参考資料にはなかったのが残念だなと思いました。

それから、この前も言ったかもしれないですけども、新しい担い手というか、長期計画には「担い手」という言葉を使ってあるんですけども、いわゆる協働が可能な団体としての大学。とても魅力的だと思うんですね。東京女子大学がここに入っているのか。5大だと武蔵野市じゃないにしても入っているんでしょうけれども、女性が多いし、ジェンダー問題を扱っている先生たちもたくさんいるし。講座の中には、おそらく地域に出て学ぶ講座もあると思うんです。私の知っている大学では、まちづくりを1つのカリキュラム

に持っている大学もあって、学生と一緒に商店街に行って、商店街の方たちとお話をしながら、商店街の将来を描いてみるような講座もある大学もあるんですね。そういう可能性も含めて、具体的に大学と地域連携事業を語れるタスクフォースがあったほうが良いなど。具体的に何をどうやって。

大学の校内を開放するというのもその1つなんですね。ある大学は全部開放しています。365日。おそらく、今はコロナもあって、規制が厳しくて入れないかもしれない。その辺がよくわからないんだけど、そういうことも含めて、大学を非常に可能性の高い、市民生活を活性化する担い手の1つとして考えていただければうれしいなと思いました。

あとは、前にも触れたんですけど、地域の仕切りが、例えば、ジブリがありますね。観光資源として素晴らしい。さっきN委員が言われた、産業振興を考えると、観光とか、インバウンドのことも触れているので、3次産業の育成が商業活動を活性化するという意味もあって、ジブリだとか、もう少し広域に、三鷹市だから知らないよ、じゃなくて。ジブリの本社はここにはないんだけど、ジブリミュージアムの担当業務をしているのは御殿山にあるんです。ご存じだろうと思うんですけど。あそこには屋根がたくさんあいているのがありますよね。見たことありませんかね。屋根が草で緑なんですね。これだけとっても、教育的にもいい施設だと僕は思っているんですね。

ビルの緑地化とか言われているけれども、計算してみると建築コストがすごくかかるらしいんです。でも、考え方を伝えるという方法として、あの建物は素晴らしいと思っていて、そういう意味で、武蔵野市の周辺も含めた協働を考える。市民生活を考えていく上ではとても大事なのかなと思います。

最後に1つだけ。この前、ウクライナの難民を受け入れていませんと言われて。1人かな。よくわからないんだけど、これは結構ショッキングなんですね。三鷹市はニュースにもなったぐらいに、ウクライナ難民で。今、何でウクライナ難民なのかというのを考えて。難民というのは、実はミャンマーの難民だとか、世界で紛争が起こっているところから逃れたいと思っている難民はいっぱいいるんですけど、何でウクライナはこんなにみんな大事にするんだろうかと考えるきっかけにもなる。そんなメッセージを、多様な社会をつくるという武蔵野市のほうから、難民問題を、ウクライナがどうしろという話ではなくて、もっと広く、世界的な紛争の問題点から意識するように私たちができるように何か発信をしてほしいなと思いました。

最後に、お寺の活用が僕は大事だと思っていたんですね。神社仏閣。いろいろな寺子屋

的なことをやっている月窓寺さんとかあるんですけども、この地域に昔から寺子屋というのがある、お寺というのは学びの場であったんですけども、なかなかそういうところに行かない。おそらくどこかで議論されているんだろうとは思いますが、あの空間はある意味ではいい空間なので、それも少し考えていただけるといいなと思いました。そんなところですよ。

○M委員

ありがとうございます。

皆様のご意見を伺って、私も一応資料は見てきたんですけども、武蔵野市の基本的な方向性というのは、どこの自治体も考えているような、本当に真つ当な目標値を持っていると思います。

一番問題なのは、それを動かしていく地域の人材が今のところどん詰まりになっていて、それをどういうふうに掘り起こしていくかというのが、どこの課題でもあるというか、ここに盛られています資料なんですけれども、それを見て思いました。

ですので、例えば、農業の問題でしたら、農地の保全もちろん大事ですけども、今、もっと高レベルな、建物の中で葉物をつくったり、いろいろなことがありますよね。武蔵野市の中で自給自足は無理かもしれないですけども、そのようなことで残していったり、新たな視点で農地を支えていったりとか。

あと、タワーマンションがものすごく建っていくんですけども、例えば、中に店舗を入れなさいとか、そういう法律はあると思うんですけども、武蔵野市は、農業のほうに力を入れているから、大きなビルの中にそういうものをつくりなさいとか、コミュニティが活発になるような空間をつくりなさいとか、法律上とかいろいろあるとは思いますが、そういうことを出して行って、ただ人が住むだけのところではなく、地域に根ざしたところから根本的に最初からある程度の量を決めて行っていくとか、そういう工夫も必要なのではないかと思います。

それ以外は、皆様がいろいろな視点からご意見をお話しされましたので、これをまとめるのが大変ですけども。

○Q委員

まとめなくてもいいですよ。

○N委員

M委員が言われた、先日から出ている、地域のいろいろな活動の担い手が高齢化してい

る、不足しているという話は、統計を見ていると明らかで、要は、1人世帯が半分以上なんです。ですから、大体その人たちは年齢が若いと思うので、それから、賃貸である人がおそらく多いですね。だから、そういう人たちの人口が非常に増えている。例えば、平成20年から平成30年の10年間で、武蔵野市の人口は1万人増えているんですけども、1人世帯が6,000人増えているんですね。だから、1人世帯の人口が増えている。だから、日本全体が高齢化なんですけれども、武蔵野市に限ってはそこがちょっと違うことになっている。だから、この人たちをどう巻き込んでいくかというのが今後の市の運営で非常に重要だと思います。

その人たちが出入りしている、なかなか定着しない。そうすると、結局コアになる地域を支える人はどんどん減ってしまう。だから、若い人たちを市の中に定住化させるような取組みをどうしていくのかというのが非常に重要。さっきのサテライトオフィスはまさにその1つにならないのかなと。ここに住んでいけば、そういう施設があつて、家では仕事ができないけれども、駅の近くに行ったら、そういうところに行って、予約制かもしれませんけれども、仕事ができ、というような環境を整えれば、定住化する人も増えてくれないのかなというのが1つの提案なんです。この人口構成を見ながら、どう若い人、単身世代の人たちを市の運営に参加させるかというのが非常に重要だなと思います。

○P委員

若い人は結構余裕がないから。多分、働いて、例えば家を買おうと思っても、高いから。子どもの育児もかかりますし。そうすると、変な話ですけども、住宅補助が出てくれる区とかに流れていく場合、ここだったら、子どもを育てて何年か住むと住宅費を補助してもらえんということがある。そこだけじゃないでしょうけれども、どうしてもこっちに家賃が高くて住めないとか。それこそ、タワーマンションはあるけれども、高過ぎて、誰が住んでいるのかよくわからない状態。だから、そんなことなのかなと思っています。おっしゃるように、若い人が住まないと、どんどん高齢化だけ進んでいくから。

○O委員

あとは、余裕がないですね。私は、自分の団地の自治会とか、限界コミュニティにかかわっているんです。それは、担い手がいないということで限界で。ただ、そういうところに属している、高齢になってしまっている方で、自分のお子さんと一緒に住まれている方もいるので、例えば、息子さんに代わってもらったらいけないですかと言っても、「息子は忙しいからだめよ」と言うんですよ。でも、あなたの息子が忙しいということは、

ほかの同世代の人だって忙しいんですよ。そこがみんながコミュニティにかかわらない理由であるので、新しい担い手と言っても、いろいろ限界はありますよね。みんな忙しいし、その忙しさ、金銭的な余裕のなさ、時間のなさを犠牲にしてでもやろうと言えるようなコミュニティですか、というのがすごく問われてくるのかなと思います。例えば、無駄な会議が多かったり、どうしても直接顔を合わせなければだめだみたいな感じの場所だったり、そういうのはそろそろ限界なのかなと思っています。

○Q委員

リモートとかは参加できないの？

○○委員

そういうのに対応しているところもあるとは思いますがけれども、私がかかわっているところでは、なかなかそういうのはないですね。

○Q委員

例えば、ZOOMを入れて、Wi-Fiが月3,000円ぐらいかければ、一応どこでもできることはできる。

○○委員

そういうふうにしてしまうという発想がなくて、ただただ担い手が降ってくるのを待っています。

○Q委員

それは無理。

○M委員

前回は言いましたけれども、最初に武蔵野市に転入してくるときに、武蔵野市でどういう市民を育てていくかというのを、あまり教育的観念でお話しするとあれなんですけれども、それを本来だったら、入ってくるときにわかっていると、こういうサービスも自分は受けられるんだというのを感じられると思うんです。どうしても働き盛りの20代、30代、40代は、市にかかわっている場合じゃないし、子どもが小さい保護者はPTAとかそういうところに入って、入ってと言われるけれども、その年齢の人間もすごく忙しいじゃないですか。だから、やれと言ったってできないから、PTAとほかの保護者のあつれきがよく取り沙汰されますけれども、そういうことになって、悪い意味でそんなことが取り沙汰されてしまうので、最初のところから必要なのかなと。

それに、昔から住んでいらっしゃる方の考え方を少しずつ、新しい考え方というか、要

はダイバーシティ、多様化の社会になってきているから、昔からの自分が生きてきた人生の観念だけではなくて、新しい観念もいろいろあるんだよというところで参加していただくような、それを、武蔵野市の役所の方は大変かとは思いますが、最初の時点でコンタクトしていただけないかなというのがありますね。

○Q委員

転入届を出したときにね。

○M委員

そういうときしか接点はないじゃないですか。

○R委員

この中に書かれているかどうか、記憶はなかったですけども、プラットフォームづくりというのがありますよね。いわゆる市民参加に向かせる。概念的にはいろいろな団体がかかわり、私自身が実態をまだイメージできていないんですけども。具体的に何をやっているかがわからないので。でも、試みとしては、何が大事かという、個人がなるべく参加できる機会をつくるということだと思えます。参加できるというのは、もう既にこの会議そのものもそうなんだけれども、いろいろな人が集まり。ただ、ここにさっきN委員が言われた、ひとり住まいというか、独身者がほとんど入ってこない。あるいは、こんなことがあることもおそらく知らない。この問題は、社会問題としてはみんな認識しているわけです。巣籠もりもあるし、あまりかかわりを持ちたくない。デートもしたことがない人が40%いるとか。そういう人たちに対して、インフルエンサー的な機能を誰がどういうふうにして持つか。もう少しきちんとプラットフォームのところで説明していただけるといいなと。要するに、欠落しているのは意識づけだと思えますね。価値観を変えろというわけではないんですが、意識づけをどのようにして少しでも一歩踏み出してくれるか。若者たちと言っては、総称がよくないとは思いますが、積極的に参加しないひとり住まいの若い人たちが一歩前に出てくれるかということ。インフルエンサーの役割というのはSNSでも非常に討論されているぐらいですから、もう少し若い世代の視点で意識づけの仕方を考えてくれるといいなと思いました。

あとは、近所付き合いは皆さんどうなんですかね。していますか。実は、コミセンの広報を配る相手に集合住宅は入っていないんです。

○O委員

入っていないですか。

○R委員

足りないのか、入っているのかどうかわかりません。ごめんなさい。全員に届いていない。優先順位は一戸建てなんですね。御殿山は集合住宅、ひとり住まいの方たちの住居が多いんですね。私も気がついて、余ったらどうぞみたいな話になっているんですね。でも、それはおそらく今までの経験から、そういう人たちは、広報を見ても捨ててしまうだろうとか。そうでもないですか。そういうところにアプローチしていますか。

○○委員

うちはあるんですけども、西部は戸数が多いんです。世帯数だけで言ったら1万を越してしまうので、配り手が足りなくて配れないということはあるんですけども、集合住宅だから配らないということはないです。ただ、システムの外部のチラシを入れさせないマンションも今どきはあるので、そういったところは配れないですけども、確かに集合住宅に住む人に関して、よそ者意識がすごくあるなというのは感じます。戸建てでずっと住んでいる人が、どうも最近入ってきた人たち、その人たちから言わせれば最近なんですけれども、ここ20~30年で来た人はまだよそ者だなと思うことがあります。

○R委員

そういう人たちと近所付き合いするのは難しいと思うんです。でも、望んでいないものを付き合いえというのは。でも、情報発信の技術も技術革新ですか、SNSを使ったりするのも大事なんだけど、私はそういう人たちに会うと、いつも「おはようございます」とあいさつをされていて、できれば話したいなと思うんだけど、おやじうるさい、みたいな受けとめ方を僕は感じてしまうから、難しいなと思うんです。

○Q委員

きっかけが難しいですね。何かないと。

○R委員

私も、やらなきゃと思いつつ、行動に移せていません。

○P委員

コミュニケーションだけだと、私のこの間の話ですけども、ワークショップにたまたま行って、市の方にこういうのがあるから、言いたいことがあれば来てくださいと参加申込書もらったんです。そのときに学生の方もいて、何となく落ち込んでいたりする学生さんなんですけれども、来て何もできてきていなくて、友達もできない、みたいな。あとは、もう少し上の世代もいたんですけども、市の今回のオンラインでワークショップを

やらせてもらったので、参加しやすく、たまたま私はここにいる状態なんですけれども、あれはおもしろいなというよりも、若い人も結構いろいろなことを考えていて、自分の周りももちろん大事ですけれども、そういうときに教えてあげたり、こういうのがあるよと言ってくれたり、東コミセンに行かれていたんだっただけかな。一生懸命心配してくださったりしていたんですけれども、そういうのがあれば、何となく市に興味を持ってくれるし。

○R委員

そういうきっかけになれば。

○N委員

会議をICT化するというか、遠隔化して、若い人が入りやすくなって。

○P委員

市から抽選のいろいろなことを考えているときには、こんなのがあるんだと思って、ちょっと出てみようかと思って出てみたらおもしろくて。

○Q委員

あれは自分で申し込むんじゃなくて、任意に当たったんですよね。学生さんは、そういうのがあれば参加するんでしょうけれども。

○P委員

若い人たちを多めに。

○R委員

ZOOMの話ですか。

○P委員

ZOOMでやりました。

○R委員

僕もやったんですけれども、意外とよかったと思いました。

○P委員

楽にしゃべれるんですよね。家にいるから。

○R委員

今、誰なのか、個人を特定しないんですよね。名前も出さなくて、ニックネームで結構です。

○N委員

出入り自由ですしね。

○R委員

出入りは自由じゃないんですよ。そこにいて、その時間はずっと基本的にはいてください。

○P委員

すごく年配の方で、たまたまうちのグループは、おばあさんと言ってはいけないけれども、高齢の女性の方が機械を使えるのかなと思う感じでも、最近、勉強して使えるんですとあって、ちょっと遅れて。最初トラブって入れなかった。そういうのもあったから、これは結構おもしろいなと思って。

○R委員

きっかけづくりという意味ではいいですね。その前に、ファシリテーター講座というのを武蔵野市がやっているんですね。ファシリテーターが市民になれるようにという活動も含めて、非常に素晴らしい活動だなと思いました。ただ、ファシリテーターの方の年齢は結構若いんですね。当然、私たちの年代の人がファシリテーターなり、そういったZOOMを積極的にやるということはないので、そこはちょっとハードルがあるかなと思うんですけれども、結果としてはとてもよかったです。

<発表>

○M委員

Cグループの発表をさせていただきます。

うまくまとめて言うと、皆さんの発言を逃してしまうので、全部言いたいと思います。

武蔵野市の基本施策については、おおむね素晴らしい計画になっているということの発言がありまして、一番大切なのは、人、モノ、場所をどうやって有効活用していったら、武蔵野市の施策を盛り上げていくかということです。

武蔵野市の産業について、施策が足りないのではないかという意見が出まして、リモートワークが増えているので、サテライトを積極的につくって、若い人たちがそういうところを利用できるような施策を考えていったらどうかという意見がありました。

それから、一生涯のライフステージとして、学び直しで中高年等リカレント教育の推進ということで、こちらも予算があまりかけられていないのではないかということで、先ほど言いました大学等の設備や人とかを、武蔵野市の施設の工事等が始まる時に、そういうところを積極的に連携をとって使わせてもらったらどうかという意見がありました。

それから、安全・安心のまちづくりとして、過去に帰宅途中におやじ狩りに遭った経験がある方がいらっしゃって、そのとき、非常に怖い思いをして、その当時から比べたら、武蔵野市の治安は非常に守られてきているようなご意見がありました。

それから、平和事業について、参加者の高齢化が進んでいると。武蔵野市の外国人の方は、留学生とか高度専門職の方が非常に多い。そして家族ぐるみでも来ているので、昨年の秋ごろにアンケートをとった結果をお話しされている方がいたんですが、「やさしい日本語」ということが武蔵野市の中で統一された基盤がないので、これを確立していく必要があるのではないかという意見がございました。

災害や防災計画について、大きな流れの組織で動かすのではなく、今、地域ごととか建物ごととか、マンションとか、そのような形でプロジェクトをつくって対応していったほうが、よりたくさんの方がわかりやすいのではないかと意見もありました。

それから、コミセン等はフリーWi-Fi等がかなり導入されてきてはいるんだけど、例えば、場所を予約するときに直接コミセンに行って紙に書かないと申し込みができないとか、この時代にそれはあまりにも不便ではないかということで、一般的に決められた方が予約になってしまったり、不自由な面もあるから、そういうところも改善していく必要があるのではないかというご意見がありました。

それから、文化財や歴史公文書の保護、活用ですけれども、武蔵野市の中には、1か所ではなくて、さまざまところにそのようなものがあるということで、それぞれの場所とそれぞれ連携して、もっと歴史的な資料と武蔵野市の公文書等の展示等に活用したらいいのではないかと。

それから、図書館は、水曜日が休みというところもあるんだけど、小学生や中学生の居場所が、水曜日はすぐ帰って、その後どうするかという安全上の問題とか、そのような視点から考えますと、水曜日を休みにするというのは考え直したほうがいいのではないかとご意見がありました。

それ以外には、農地の2022年問題を視野に置いて、産業がないということで、農業の力をもう少し考えるということで、地域農園を支えていたりする活動が必要ではないかと、あと、地域で野菜を買っているというシーンを見ている方も、実際にご自身も活用しているということで、ご意見を言われる方もいらっしゃいました。

それから、ご自身が地域の活動に参加していこうと思っても、そのような情報がなかなかとれないということで、意見を聞くと、決まった方々の活動になっているという、

そういうところに入って行くのは非常に敷居が高いということもあって、そういう情報をたくさん流してほしいというご意見がございました。

あとは、平和の文化をきちんと考えて、また、それ以外に5大学が武蔵野市の中にあるので、大学と緊密に連携し合いながら、武蔵野市の地域の活動の活性化につなげていければいいのではないかと。

また、ジブリは三鷹にあるけれども、その運用事務所は武蔵野市にあり、そのような企業と連携して、武蔵野市の知名度とか観光等に力を入れていただけるのではないかとという意見がございました。

全部言い切れなかったんですけども、お時間になりましたので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。